

ちょっと拝見!

MOKA



の職場



溶接の様子



PCでの部品発注作業



休日はバイクでリフレッシュ

南海金属株式会社 真岡工場
生産管理部

いいだ あい
飯田 藍さん(27歳)

製造技術者の伴走者として
調達管理のスキル向上を目指しています



仕事内容を教えてください

農業機械等の板金部品調達を行っています。工程の進捗状況を把握しながら部品や原材料を発注し、製品(完成品)が期日に遅れることなく客先へ納品できるよう部品納入スケジュールを管理しています。

現在、約1万点以上の部品を担当しており、製造技術者の伴走者として社内の各部門と連携をとりながら、約200社ある取引先と仕入れ数量や納期の調整・交渉を行っています。

入社のきっかけは何でしたか?

工業系の仕事に就きたい、地元で長く勤めたいと思っていたこと、また、アットホームで人とのつながりが多い職場の方が仕事がしやすいと考え、この会社を選びました。

やりがいは何ですか?

苦勞してそろえた部品が、大きな完成された製品(農業機械)となり、自分の目で、この部品がこ

こに使用されていると改めて確認ができた時、加工や製造の工程が思い起こされ、頑張っただけの思いが伝わったと実感できます。

業務が多岐に渡るため社内外での信頼関係を築き、多くのつながりができていくのが楽しいです。

社内の雰囲気はどのようなですか?

全体的に明るい雰囲気、社員の意見を聞き止めてくれている会社だと思います。福利厚生も充実しており、育児休暇や介護休暇など男性社員の取得実績もあり、制度を活用しやすい職場環境です。

今後の目標を教えてください

仕事を始めて1年半が経ち、業務での改善点が見えてきたので、よく考えて効率的に行動し、生産性を上げる原動力になればと思います。今後は後輩の育成にも力を入れて、仕事のノウハウや調整力、交渉力をアドバイスできるよう努めます。

会社プロフィール



南海金属株式会社 真岡工場

【所在】長田 185

【設立】1968年



会社HP



溶接技術を活かした農業機械や建設機械、特殊車両等の板金部品を中心に、治具の設計・製作から組み立てまで、お客様のニーズに合わせた製品づくりに取り組んでいます。また、「ものづくり世界一」を目標に掲げ、品質を進化させながら世界のフィールドに挑んでいます。

掲載希望の方は秘書広報課広報係へ
Tel. 83-8100 kouhou@city.moka.lg.jp

あの日あそこ

第420回

みずぬま ちづこ
水沼 千鶴子さん
(寺久保在住・82歳)



声で語る「わくわく」を
多くの人々へ届けたい

私は昭和16年、神奈川県横須賀市で生まれ、3人姉妹の長女として育ちました。その年の12月に太平洋戦争が始まりました。戦時下であったので空襲警報のサイレンが鳴ると防空壕へ逃げ、その中で母が炒った豆を少しずつ食べて空腹をしのいだこともありました。4歳の頃に終戦となり、その時は千葉に住んでいました。当時は食料不足で、母親や近所の人たちと農家へ食料の買い出しに付いて行きました。しかし途中、一本橋を渡って川を越えなければなりません。その時の恐怖心は、今でも思い出すと背筋が冷たくなります。

その後、父の実家がある真岡で暮らすことになりました。ぎゅうぎゅう詰めの貨物列車に家族で身を寄せ合いながら移動し、母親の実家がある茂木で小学2年生まで一時過ごした後、学生時代から現在まで、人生の大半を真岡で暮らしています。

会社を退職した後は、パートを続けながらシルバー大学へ2年間通いました。人前で話すことが苦手な私でしたが、たくさんあるクラブ活動の中で初めて聞いた民話に強く惹かれ、クラブに入り

ました。民話は台本が無いので、本を読み自分で原稿を作ります。この作業が一番大変でした。初めての発表会では、緊張でセリフを忘れたこともありましたが、亀山小で活動している様子(平成4年5月)



シルバー大学卒業後の平成17年に、民話の会「花もめん」を立ち上げ、活動を始めて今年で19年目に入りました。4月から始まったケーブルテレビ「みんなの民話」の放送は153回を数え、平成20年からの「町おこしふるさとの昔ばなし」は、今年2月で154回を迎えました。現在も小学校や公民館、高齢者施設での活動や、FMもおかで土曜日の朝8時から放送しています。民話は聞き手と語り手で成り立つものです。話に引き込まれて感動したとか面白い話には笑って反応してくれた時は語り手冥利に尽きます。また、子どもたちが目を輝かせながら聞いている姿に私自身元気をもらえます。コロナ禍で活動が制限された時期もありましたが、昨年11月に4年ぶりに発表会を行い、大勢の方に来ていただきうれしかったです。これからは、健康のために四竹踊りやグランドゴルフ、カラオケなどをしながら、もう少し民話も続けたいと思っています。



旦那さんが叙勲を受賞されたときの一枚

消費生活センターメモ No.489

数年後に配達される
新聞購読契約はトラブルのもと



<事例> 突然、新聞が配達され始めた。販売店に問い合わせると、3年前に2年間の契約をしていたことが分かった。

新聞購読は「契約」です。いったん成立するとお互いに契約内容を守らなければいけません

訪問販売で契約した場合、契約書面を受け取った日から8日以内であれば、クーリング・オフにより無条件で契約解除ができます。

しかし、事例のように、購読期間を定めた契約はクーリング・オフ期間を過ぎた場合、一方的な理由で中途解約できません。



新聞購読契約に関するガイドライン

読者から解約の申し出があった場合の対応について、日本新聞協会および新聞公正取引協議会は、購読者の死亡、購読が困難になる病気・入院・転居など、解約が合理的だと考えられるときは、販売店は解約申し出に応じるべきという考え方を示しています。また、認知症など判断力が不足している状態での契約や、上限を超える景品を渡していた場合などは、直ちに解約に応じるべきとしています。

景品の上限額(新聞公正競争規約)

「契約金額の8%または6カ月分の購読料金の8%のいずれか低い金額」と定められています。

【相談窓口】消費生活センター(くらし安全課内)
Tel. 0285-84-7830 (ハナシテナヤミナシ)
平日 9:00~12:00 13:00~16:00 ※相談料無料